

2.

神戸の鬼 2012 年 2 月

神戸長田の森「長田神社の鬼」と 稲美町野寺「高蘭寺の鬼」



神戸長田神社
節分・追雛式
2012.2.3.



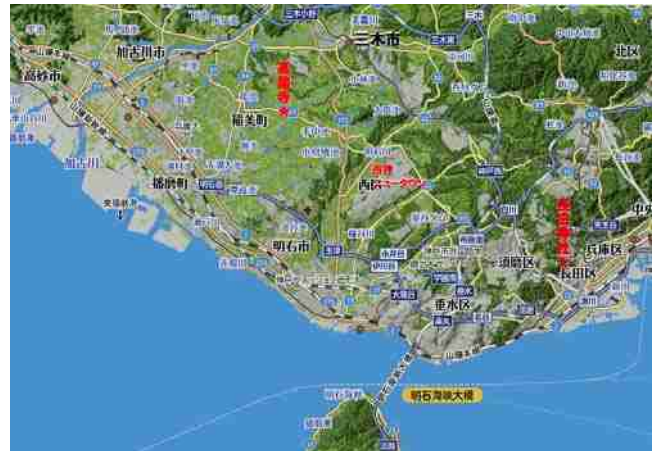
稲美町野寺
高蘭寺
鬼追式
2012.2.10.

毎年節分の頃になると日本各地に伝わる鬼伝承と節分行事が気になる。

「鬼は外」と豆をまかれて追い払われる鬼 神や仏の化身として「鬼も内」と親しみを持って迎えらる鬼もある。 総じて追い払われる鬼は中央・政権側の伝承に多く、親しみを持って迎えらる鬼は民間伝承に多く、地方の尾に伝承に多い。

「遠くへ行かんでも、神戸にも”ええ鬼”が居るで。 長田神社の節分は 豆を撒かへんで」と。

神戸を代表する長田神社の追雛式 近くに居て 一度追雛式を見た覚えもあるのですが、良く知りませんでした。



近畿の ”ええ鬼” の代表といたら大峰山や吉野金峯山寺の鬼と
思っていたのですが、長田神社をはじめ、

日本各地に神の使い 仏の化身として厄払いをする鬼伝承が残っているという。

神戸西ニュータウンの西 溜池が点々とある西播磨の田園地帯 稲美町野寺の集落にある古刹高蘭寺の鬼も
仏の化身 松明をかけた赤鬼・青鬼が本堂の回廊を舞い巡り、詰掛けた村人達に松明を投げ入れる素朴な鬼
追式(2月9・10日)が残っていると聞く。

田園地帯の中を加古川や姫路へ抜ける狭い裏街道筋のそばにある寺でよく通る道筋ですが、
この鬼追式についても良く知りませんでした。

今年は 昨年 神楽舞を見て、古い舞の面白さに惹かれていて、神戸でも 追雛式・鬼追式で 鬼の舞が見られると知って

今年は 2月3日長田神社の節分・追雛式 2月10日東播磨稲美町野寺高蘭寺の鬼追式を見学に行きました。

神戸周辺に 集落の人といっしょになったこんな素朴な鬼の舞が残っているとびっくりでした。

また この鬼の舞に使われる面も数百年を経た文化財。 集落の人達は その面を頭にかぶらせてもらったり、触って厄払い。また 投げ込まれた松明をわれ先にと争い、家に持ち帰って玄関に飾る魔除けの風習も生きていました。

地域に根ざした素朴な追雛式・鬼追式がそのままのこるといいなあ・・・と勝手なことを思いながら帰ってきました。

1. 長田神社 古式追儼式（県指定重要無形民俗文化財）

2月3日 長田神社の節分・追儼式

7匹の鬼が神々のお使いとして登場し、松明の炎で種々の災いを焼き尽くし、太刀の刃で寄り来る不吉を切り捨て、天地を祓い国土を清めて、一年の家内安全、無病息災を願って、一陽来復の春が再び巡り来ることを喜び祝います。

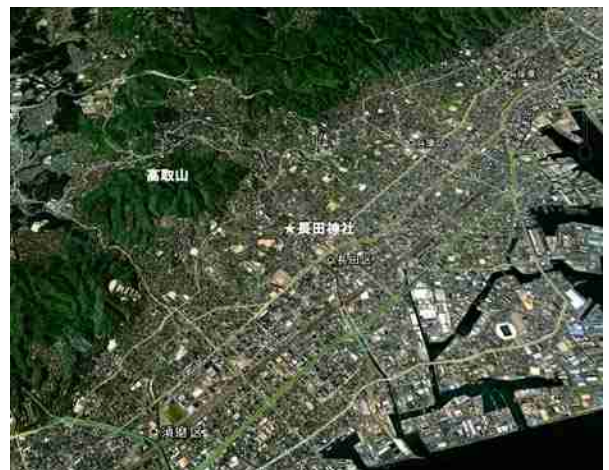


長田神社は生田神社、湊川神社と共に神戸を代表する神社の一つで、西神戸のランドマーク高取山の南東麓に鎮座する1800年を越える歴史を持つ古社。『日本書紀』によると、201年（神功皇后摂政元年）2月、皇后が新羅より帰還中に武庫の水門（みなと）で神託（「吾が御心長田の国に祀れ」）を受け、創祀されたという。

祭神の事代主神は、「恵美主様」「福の神」ともいわれ、商工業や産業の守護神、日々の生活の開運招福・厄除解除の神として崇敬され、市民からは「長田さん」と親しまれ、初詣や節分には多くの市民でにぎわう。

2月3日の節分祭では、豆まきが行われず、神の使いを務める七匹の鬼が、松明や太刀をふりかざして舞う迫力ある「古式追儼式」が行われる。

この神事は 午後1時過ぎ 法螺貝と太鼓の響きが長田の森に鳴り響き、松明をかかげた鬼が次々に現れ、本殿の周囲を巡る。本殿の前に組まれた舞台上で舞い踊り、神々に代わって全ての災（わざわい）を払い清めてゆく。神社の森が夕闇に包まれる午後7時ごろまで、延々約6時間にも及ぶ炎と鬼の舞神事。







今回始めてこの神事を見ましたが、静かな森の真っ赤な社殿の前で 法螺貝と太鼓が鳴り響き、掲げた松明にゆっくりとしたしぐさで舞い踊る鬼の姿が浮かび出て、時空を越えた素朴な鬼の姿が頭に焼きついて、気持ちですっとする。後で考えると 単純な繰り返しの舞によう6時間も立ちっぱなしでみていたなあ・・・と思うのですが、其の舞姿にひきつけられた一日でした。

- 数十名に及ぶこの神事の奉仕者は神社近在の昔からの氏人(旧長田村)の人に限られ、前日より各々鬼宿(おにのやど)、太刀役宿(たちやくのやど)に籠り、鬼役は身を清めるため何度も井戸水をかぶり練習を重ね、更に、当日早朝須磨の海岸で海中に入り、身も心も清めて神の代理としての鬼役を務めるという。
- また、この神事の起源ははっきりしないが鬼面、太刀等の製作年代や古文書等より、室町時代(約650年程前)には、境内の薬師堂に於ける修正会として、既に現在と同じような形で行なわれていたと考えられ、古い形態を今日に伝える貴重な神事として、鬼面並び行事一式が昭和45年兵庫県の重要無形民俗文化財に指定されている。
- この神事の中で 鬼がかかげた松明(長田神社の松明は麦藁が束ねられている)の燃え残りを厄除けの朱印入りの白い紙に包んで朝日も出結んだミニ松明を家に持ち帰り、軒先や玄関につるし、この一年の平穏無事を祈るのがこの地域の風習。 この追雛式と平行してこのミニ松明を貰い受ける人達の列が続いていました。
また、演目の間には鬼たちが手で顔を触っては その手を参拝者の頭や顔に乗せてゆく。これも この地域の厄除けの風習という。



長田神社の古式追雛式の概要解説は下記 長田神社のホームページにありますので、そちらをご参照ください。

■ 長田神社 古式追雛式 (県指定重要無形民俗文化財)
長田神社 ホームページより <http://nagatajinja.jp/html/>

長田神社のホームページなどインターネットで 「長田神社の追雛式」の予備知識を頭に入れて、長田神社に向かう。
赤い大きな鳥居のある長田神社門前の商店街の道の歩道には露天店が立ち並び、お祭りムードいっぱい。
境内には多くの人が詰掛けているが、初詣のときをイメージしていましたので、案外少ないですが、社殿の前は人でいっぱい
で 鬼の登場が今か今かと興味深々と出を待っている。私もそうですが、素人カメラマンが本当に多い。

社殿前には社殿の右端
から左端まで広い舞台
が設けられ、社殿の右側
から踊りながら鬼が登
場し、左へ移動しながら
踊り、左端から社殿の奥
へ消え、また 右側か
ら登場する。



拝殿正面には「泰平の餅（太陽と月、並びに天地を表す）」、その左右に「六十四州の餅 日本の国々を表す）」を各々
榊葉（さかきのは）で飾ってぶら下げ、舞台中央には「影の餅（かげのもち、別名鬼の餅、一年十二ヶ月を表す十二
個の餅）」を据え、 拝殿には「餅花（もちばな、柳の大枝に餅とミカンをつけて花が咲いた様にする。 宇宙と星並び
に人々を表す）」を飾りつけてある。（長田神社ホームページの解説より）

1 時半を過ぎて、法螺貝が境内に響き渡り、「ドーン」「ドーン」とゆっくり太鼓が打ち鳴らされ、社殿の右端の奥からゆっくりとした所作の踊りを踊りながら舞台に登場してくるといよいよ古式追雛式の始まりである。



長田神社の追雛式 鬼の舞 2012. 2. 3.

7匹の鬼が神々のお使いとして登場し、松明の炎で種々の災いを焼き尽くし、太刀の刃で寄り来る不吉を切り捨て、天地を祓い国土を清めて、一年の家内安全、無病息災を願って、一陽来復の春が再び巡り来ることを喜び祝います。

- まず 一番太郎鬼が右手に麦藁で作った松明を持ち踊りながら三度登場。
- 次に 赤鬼、姥鬼、呆助鬼、青鬼、一番太郎鬼の順でそれぞれが松明を持って現われ、五匹揃って鬼の舞。二度登場
- 次に 餅割鬼が右手に松明、左手に斧。尻くじり鬼が腰に槌 右手に松明、左手に大矛を持って踊る
- 次に 赤鬼以下五匹が登場、舞台上で太刀役より太刀を受取り（太刀渡し）、右手に松明、太刀を左肩に舞い踊る
- 次に 再び餅割鬼、尻くじり鬼の二匹が現われ舞う。
- 更に 御礼参りと云って先の五匹が現れる。
- 最後 この行事の見せ場である餅割行事 餅割鬼、尻くじり鬼が「泰平の餅」「六十四州の餅」「影の餅」を斧・槌で割ろう（災厄解除の祓）といろいろな面白い所作を繰り返しながら踊り、最後に「影の餅」を斧で割り（新年を祓い清める終る）鬼室に退下して行事は終了。

長田神社の追雛式 鬼の舞 写真アルバム 2012. 2. 3.



一番太郎鬼 赤鬼 姥鬼 呆助鬼 青鬼 餅割鬼、尻くじり鬼

7匹の鬼が神々のお使いとして登場し、松明の炎で種々の災いを焼き尽くし、太刀の刃で寄り来る不吉を切り捨て、天地を祓い国土を清めて、一年の家内安全、無病息災を願って、一陽来復の春が再び巡り来ることを喜び祝います。

1. 一番太郎鬼が右手に麦藁で作った松明を持ち踊りながら三度登場



2. 赤鬼、姥鬼、呆助鬼、青鬼、一番太郎鬼の順でそれぞれが、松明を持って現われ、五匹が揃って鬼の舞。二度登場





3. 餅割鬼が右手に松明、左手に斧。尻くじり鬼が腰に槌 右手に松明、左手に大矛を持って踊る



4. 赤鬼以下五匹が登場、舞台上で太刀役より太刀を受取り（太刀渡し）、右手に松明、太刀を左肩に舞い踊る





5. 再び餅割鬼、尻くじり鬼の二匹が現われ舞う



6. 御礼参りと云って先の五匹が現れる



7. この行事の見せ場である餅割行事

餅割鬼、尻くじり鬼が「泰平の餅」「六十四州の餅」「影の餅」を斧・槌で割ろう（災厄解除の祓）といろいろな面白い所作を繰りひろげ繰り返しながら踊り、最後に「影の餅」を斧で割り（新年を祓い清める終る）鬼室に退下して行事は終了。



◎ そのほか



退場した鬼達は退場しても 手を下に下ろさず、変え沿いの人達の方に両手を置いて、立ったままの姿で休む

松明をかがげ、手を上げたままの所作が延々と続く鬼達。すごい疲労だと思うが、鬼達は座らず、また手を下に下ろさない。

多分 これにもわけがあるのだろう。



演目の間に鬼たちが、本殿に組まれた舞台の横に出てきて、つけている鬼面を触ったその手を参拝者の頭や顔に乗せてゆく。これも この地域の厄除けの風習という。

【参考】 長田神社 古式追儼式の概要 (県指定重要無形民俗文化財)

長田神社 ホームページより <http://nagatajinja.jp/html/>

追儼(ついな)とは、通称、「おにやらい」「おにおい」と云い、毎年大晦日に、宮中、社寺、民間で行なわれてきた大祓の年中行事で、現在各家庭で行なわれている豆まき行事のことである。一般に鬼は不吉なもの、種々の不幸・災をもたらすものと嫌われ、この鬼を追い払い、新年の家内安全、無病息災を願うのがこの行事の目的である。元来、大晦日に行なわれたものであるが、大陽暦採用の関係上、春の節分に行ない、翌日の立春を祝い迎える行事となった。

長田神社追儼式の鬼は、前記の鬼とは意味を異にし、神々のお使いとしての鬼であり、神々に代わって全ての災(わざわい)を払い清めて、清々しい良い年を迎えることを祈り踊るのである。これと同じ姿の鬼は、東北地方の「なまはげ」「おしらさま」等に見られる。

長田神社のこの神事の起源は、はっきりしないが鬼面、太刀等の製作年代や古文書等より、室町時代(約650年程前)には、境内の薬師堂に於ける修正会として、既に現況の様な形で行なわれていたと考えられ、古い形態を今日に伝える貴重な神事として、鬼面並び行事一式が昭和45年兵庫県の重要無形民俗文化財に指定された。

神事は、一番太郎鬼(いちばんたろうおに)、赤鬼(あかおに)、青鬼(あおおに)、姥鬼(うばおに)、呆助鬼(ほおすけおに)、大役鬼といわれる餅割鬼(もちわりおに)、尻くじり鬼(しりくじりおに)の七匹の鬼、又太刀役(たちやく)と云う五人の童児(十歳前後)、肝煎り(きもいり)と云う世話人等数十名が奉仕する。この人等は、神社近在の昔からの氏人(旧長田村)の人に限られている。

奉仕者は、前日より各々鬼宿(おにのやど)、太刀役宿(たちやくのやど)に籠り、鬼役は身を清めるため何度も井戸水をかぶり練習を重ね、更に、当日早朝須磨の海岸で海中に入り、身も心も清めて神の代理としての鬼役を務める。

当日、社殿の前には舞台(東西十二間)を設け、拝殿正面に「泰平の餅(たいへいのもち、太陽と月、並びに天地を表わす)」、その左右に「六十四州の餅(ろくじゅうよしゅうのもち、日本の国々を表す)」を各々櫛葉(さかきのは)で飾ってぶら下げ、舞台中央には「影の餅(かげのもち、別名鬼の餅、一年十二ヶ月を表わす十二個の餅)」を据え、拝殿には「餅花(もちばな、柳の大枝に餅とミカンをつけて花が咲いた様にする。宇宙と星並びに人々を表わす)」を飾りつける。

行事は、午後一時の節分祭に始まり、鬼、太刀役、肝煎りの人々は、鬼の宿より威儀を正して参進(練り込み・ねりこみと云う)し、祭典に参列の後、鬼面を始め諸道具並び忌火を受け取り、社殿裏にある鬼室(おにむろ)で鬼の仕度(装束は麻布の上下一体の特殊な衣裳でカヤと呼ばれる)をすると共に、忌火により舞台東西に篝火がたかれる。

鬼の舞 午後二時、太鼓、ほら貝の音に合わせて神事 鬼の舞が始まる。

先ず 一番太郎鬼が右手に麦藁(むぎわら)で作った松明(たいまつ)を持ち踊りながら三度登場。

次に 各々松明を持った赤鬼、姥鬼、呆助鬼、青鬼、一番太郎鬼の順で現われ五匹が揃っての演舞を二度行なう。

次に 餅割鬼が右手に松明、左手に斧、尻くじり鬼が腰に槌右手に松明、左手に大矛を持って踊る。

次に 赤鬼以下五匹が登場、舞台上で太刀役より太刀を受取り(太刀渡しーたちわたしー)、右手に松明、太刀を左肩に演舞、

次に 再び餅割鬼、尻くじり鬼の二匹が現われ舞う。

更に 御礼参り(おれいまいり)と云って先の五匹が現れる。

愈々最後 この行事の最高調の見せ場である餅割行事

餅割鬼、尻くじり鬼の二匹により「泰平の餅」「六十四州の餅」「影の餅」を斧・槌で割ろう(災厄解除の祓を意味する)と色々な面白い所作を繰り返しながら踊り、最後に「影の餅」を斧で割り(新年を祓い清める終る)鬼室に退下して行事は終了。

大役の餅割鬼奉仕者は神事の主役。 各鬼役を奉仕して 始めて務めることが許され、少なくとも七回以上の奉仕となる。

この行事は、七匹の鬼が神々のお使いとして、松明の炎で種々の災を焼きつくし、太刀の刃で寄り来る凶事を切り捨て、天地を祓い国土を清め、一年間の人々の無病息災、家内安全を祈り願って、一陽来復の立春が再び巡り来ることを喜び祝う願う予祝の行事である。

参拝者は、松明の灰をかぶることにより祓を受け、松明の燃え残りを家の入口に吊して除災招福を願い、又餅花を食べて無病息災、家内安全を願って、この年の平穏を祈るのが古来よりの風習である。



松明



厄除け餅



餅花



六十四州の餅



十二ヶ月の餅



一番太郎鬼



赤鬼



姥鬼



呆助鬼



青鬼



餅割鬼、



尻くじり鬼

長田神社 ホームページより
<http://nagatajinja.jp/html/>

2. 災い払う火の粉舞う伝統の鬼の舞 稲美町野寺 高蘭寺の鬼追式

稲美町 無形民俗文化財 2012.2.10・夕 加古川市稲美町野寺



2月9日・10日の夕刻 たそがれゆく境内に、ほら貝と太鼓の音が響き、本堂の回廊を松明を掲げて幾度となく練り歩く赤鬼と青鬼。
赤鬼は毘沙門天青鬼は不動明王の化身と伝えられ、燃えさかる松明を人垣へ投げ入れ、本堂正面で舞い踊り、天下泰平・五穀豊穡を祈る。
すぐ眼前を火の粉を撒き散らしながら燃えさかる松明が飛び、人々は飛び散る火の粉をものともせず、参拝者は先を争って拾い上げる。
投げ入れられた松明を持ち帰り、玄関に掲げると魔除け、鬼の面を被せてもらうとご利益が有るという。
ここでは鬼は仏の化身 いい鬼である。



神戸の北西端 神出の西側 播磨平野の西端 加古川東岸に数多く野池が点在する稲美町の野寺集落の中心にある古い真言宗の高蘭寺には集落の人達により、約260年守り継がれてきた素朴な鬼追式がある。

鬼追式は毎年2月9日、10日 高蘭寺観音堂(本堂)で行われる。

西の空が夕焼けに染まる2月10日の夕刻 太鼓とほら貝(法螺)の音に合わせて現れた赤鬼(毘沙門天の化身)と青鬼(不動明王の化身)が、松明を掲げて ゆっくりと舞い踊りながら本堂の回廊を幾度も巡り、その途中で 松明を境内に向かって投げ入れ、本堂正面で天下泰平・五穀豊穡を祈る。赤鬼は背に斧を差し、手に槌と松明を持ち、青鬼は鉾と松明を持つ。観音堂の回廊を右回りに4回 左回りに4回巡る。10日の鬼の舞は「餅切り」と称して、本堂の東南の角で赤鬼が斧を持って踊り、餅を切る所作をする。また、使われる鬼の面は約260年前から伝えられているものといい、250年を越えて続く鬼追式である。午後6時半を過ぎ、太鼓と法螺貝の音だけが響き渡る真っ暗になった境内に 木の枝に紅白の切り紙を貼り付けた梅の枝を持って赤鬼と青鬼が現れ、本堂を巡り、裏に消えてゆくと この鬼追式は終わりとなる。

鬼追式が終わると本堂の正面前には 小さな子供を抱えた親や大人たち 集落の人達が行列を作り、次々と鬼の面をかぶらせてもらい、厄除け祈願をして 三々五々帰ってゆく。(2月10日 稲美町野寺 高蘭寺の鬼追式見学より)

火の粉舞う伝統の鬼の舞 稲美町野寺 高蘭寺の鬼追式 2012.2.10.

燃えさかる松明を手に 踊りながら出てきた鬼が 人垣めがけて 松明を投げ入れ 人々はその松明を奪い合う
この投げ入れられた松明を軒先・玄関に飾るのが一年の魔除 この地 260 年続く風習である

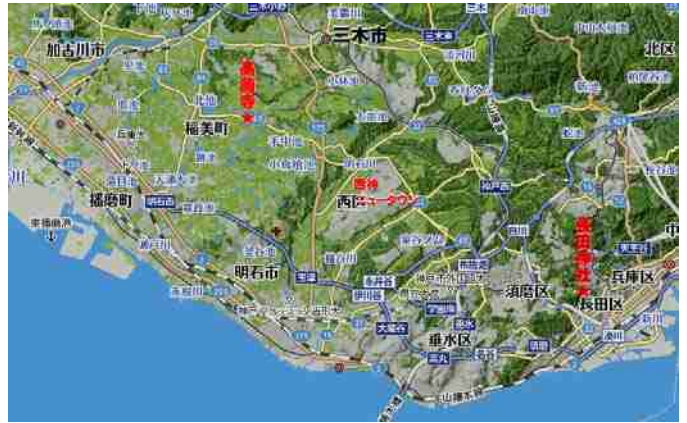


この稲美町野寺 高蘭寺は 神戸の北西端の神出から西へ加古川・姫路へ通じる裏街道沿いにある。

西へ行く時にはよく通る県道沿いで、田園の中に点在する集落のひとつ 野寺集落の古い寺であることは良く知っていましたが、集落の人達によって守られてきたこんな古い鬼追式 「良い鬼 仏の化身の鬼」の伝承があるとはまったく知りませんでした。

土地勘と車でないとちょっと夜行けない場所なので、まだ鬼追式に先立ってあった餅撒きも含め、観光化していない伝統の素朴な鬼追式が今も集落の人達によって継承されていました。

また、もう これ以上 人が増えて 本堂前境内が人の波で埋まってしまうと平たく削いだ黒松をぎっしり束ねて作られた松明が投げ入れることも難しくなるのでしょうか、目の前へ飛んできて、地面でぱっと火の粉が散る迫力はすごい。真っ暗闇の中、法螺貝と太鼓が鳴り響く中、松明の炎に照らされて 浮かび上がる鬼の姿の迫力もすごく、まさに神秘的でもある。



この地域の人が多いのでしょうか、ざっと目分量で 300 人ほどで、其の中に数多くの子供達。こんなに多くの子供達がいるのもこの鬼追式が集落で生きている証でしょうか・・・

鬼追式が始まる前に 鬼になったことがあるという古老がこの鬼追式や高蘭寺について 生き生きと教えてくれたのが印象的でした。

史料などによれば、高蘭寺を開いたのは 播磨に多くの寺を開いたとされる 7 世紀半ばごろの人物法道仙人。

9 世紀前半には弘法大師も訪れ、地藏菩薩や毘沙門天を安置したと伝わる。

同じく法道仙人が開いたとされ、衰退の一途をたどっていた法雲寺（加古川市）と 1355 年に合併し、広大な敷地を有し、金堂や薬師堂、宝塔などが立ち並び、最盛期には 32 坊が軒を連ねていたが、1578 年、羽柴秀吉の三木城攻めの際、戦火に遭って大半が焼失。その後、姫路城主池田輝政らの援助によって復興を果たしたという。

寺の前には野池と播磨平野の田園が広がり、寺のある小さな丘には雑木林が広がり、其の中に 石の小さな祠に赤い涎掛けをしてもらった古い石仏が木々の間に点々と安置された林の中の小道が伸びている。88ヶ所を示しているといい、喧騒のない静かな空間が広がっていました。この石仏めぐりも今度ゆっくりやってみよう・・・。

もう ちょっと 交通の便が良いといいのですが・・・



高蘭寺の境内 赤いよだれ掛けをつけた古い石仏が良く整備された林の小道沿いに

点々と続く 集落の中心的存在の古い寺の感じが伝わってくる 2012. 2. 10. 夕

【写真アルバム】

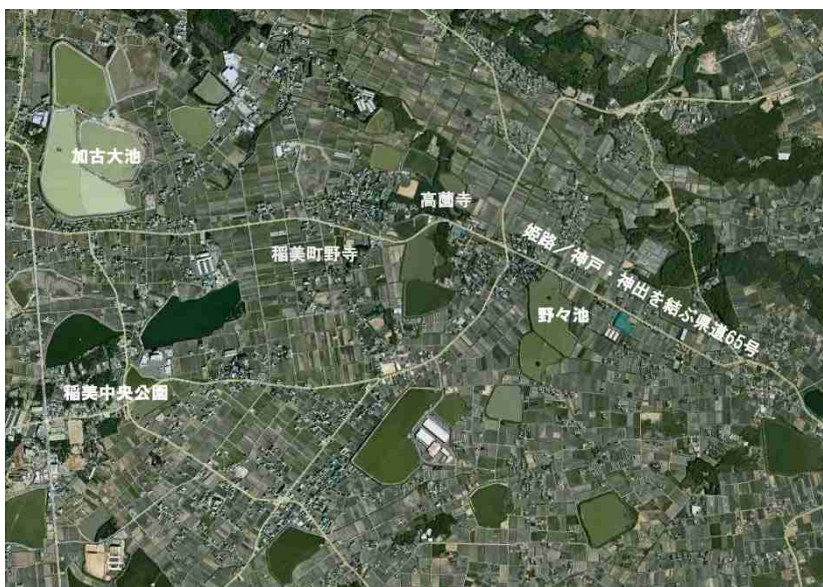
災い払う火の粉舞う伝統の鬼の舞 稲美町野寺 高蘭寺の鬼追式



高蘭寺の鬼追式は2月9日・10日午後5時からとインターネットに出ていたのが頼りで、午後4時過ぎかないの車で家を出る。とにかく 行って見ないと様子がよくわからない。

神戸の北西端 雌岡山麓神出を南北に走る国道 175 号線とクロスしてさらに西へ県道 65 号 神戸の北から稲美町から加古川を越えて姫路の北へ出る裏街道。は細いですが、信号がなく 渋滞のない地域の人々はみな良く知る道筋である。

神出から田園地帯を西へ4km 10分ちよつとでこの街道筋に点在する集落のひとつ 稲美町野寺の池の横に出る。



この周辺は播州平野の西の端 無数の野池が点在するところで、この野寺の集落をさらに西へ抜ければ、加古の大池から加古川にかかる上荘橋に出る。通いなれた道である。



稲美町野寺 高蘭寺周辺 野池が点々とある田園地帯 野池に隣接する森に高蘭寺 其の周りに野寺の集落がある

Google map から県道 65 号線 野寺高蘭寺周辺の写真を取り出しました

森の熊さん そして野々池の横を過ぎて、稲美町に入ると まっすぐな道の正面に高蘭寺の森が見えてくる。 この森の際から高蘭寺へ行く道があるのですが、今日は高蘭寺の追雛式があるので、交通止め。 左右二つに分離された野池の真ん中を通り抜け、池の西側から北へ回りこんで、野寺の集落の中から高蘭寺へ回り込むように、交通整理員の人が教えてくれる。寺の裏の駐車場にはもう 車がいっぱい。 車を置いて 林の中を抜けて 高蘭寺の境内に入る。

高蘭寺は古い寺で、広い境内なのですが、周囲に垣根はないのですが、良く手入れされていて、中央に小さな本堂 其の西に新しく再建された鐘突き堂があるだけで、西端に住職さんの大きな屋敷が見える。この寺が小さい鳴りに集落の中心的存在であることがうかがえる。 時刻は4時半過ぎ 鬼追式を見にきた人達がちらほら。

また、西側の境内には露天店が建ち並び、この高蘭寺の鬼追式がこの地域では大きな祭りらしい。

集まってきて鬼追式を待つ人達の中に 鬼役を務めたことがあるという古老を見つけ、鬼追式について教えてもらう。



1. まず 追雛式を行う住職 鬼役の若者やこの集落の世話役・子供達が、西の寺務所から行列で本堂に入ります。
2. 本堂から持ち撒き
3. 鬼追式

法螺貝・太鼓に合わせて 本堂の裏から松明をもった赤鬼・青鬼が現れ、回廊を踊りながら本堂の正面へ

赤鬼・青鬼それぞれが、松明を境内に投げ入れ、2匹の鬼が正面で踊りながらまた、向こうの端で松明を投げ入れ回廊から本堂の裏へ消えてゆく。

これを繰り返すという。

ちょうど この辺の距離が松明が飛んでくる位置や・・・と。

また、長田神社では松明が麦藁だったので、

それを聞くと黒松の木を剥いで造った正真正銘の松明で、当たらない様にせなあかと・・・。

これで、小学生や子供達が多くいるのが判った。餅撒きもあるのだ。



話を聞いている間に 境内はだんだん人で埋まってくる。集落の人達や数多くの素人カメラマンが鬼追式の始まりを待つ。

まだ、開始には時間がありそうなので、以前から気になっていたこの高蘭寺に隣接する林の中に点在する赤いベベを着た石仏を見に行く。

私はこれが墓だと思っていたのですが、古老の話では古い石仏群で 石屋根の中に納まっているのは 88ヶ所霊場を再現しているのだと。 この寺が真言宗 そして播磨 33ヶ所観音霊場であることと関係しているようだ。





待っている間に夕暮れが迫る 真っ赤な夕日が西の空に沈んでゆきました 2012. 2. 10. 夕



260 年伝承されてきた高蘭寺の赤鬼・青鬼の面 2012. 2. 10.

赤鬼は毘沙門天青鬼は不動明王の化身と伝えられている

本堂の中を覗くと正面に赤鬼・青鬼の面が備られていました。赤鬼は毘沙門天 青鬼は不動明王の化身で、松明をかがげその火の粉で邪気をはらうという。

この面は約260年 この寺に伝えられてきたお面 このお面をつけて ずっとこの野寺の集落の人達によって鬼追式が行われ、伝承されてきた。

1. 鬼追式を執り行う住職 鬼になる若者 そして世話役の入場

午後5時を過ぎ、いよいよ 鬼追式の行事の始まる。 沈み行く夕日を浴びながら、この鬼追式を執り行う人達が西の寺務所から行列して本堂へ入る。先頭に梅の花枝を持ち、松明を入れた櫃を担いだ子供たちの列 其の後ろにほら貝を吹き鳴らしながら 鬼の役を務める二人の若者が高下駄をはいて続く。 片足づつ、足を高く上げて 一步一步ゆっくりと進んでゆく。



梅の花枝を持ち、松明を入れた櫃を担いだ子供たちの列 2012. 2. 10. 夕



鬼の役を務める二人の若者 高下駄を片足づつ、足を高く上げて 一步一步ゆっくりと進んでゆく 2012. 2. 10. 夕



境内はもう一杯 この田舎のどこからと思うほど 多くの子供たちが眼を輝かせて行列を見ている 2012. 2. 10. 夕



本堂に入って ご本尊に御参り 住職の説話が聞こえてくる 2012. 2. 10.

2. 餅撒き

住職の説法の後には餅撒き。 多くの子供たちの目当てはこれだ。 本当にひさしぶりに参加する餅撒き鬼追式で 飛んでくる松明をよける訓練も・・・・。 参加せねば・・・・。

境内の中に子供たちの歓声と 子供たちに取り囲まれている先生が何人も・・・・ 地域に根ざした行事である。



稲美町野寺 高蘭寺 餅撒き 2012. 2. 10. 夕



餅撒きが終わると本堂内では急ピッチで鬼追式のじゅんぴが進む 2012. 2. 10. 夕



本堂内で赤鬼・青鬼の面がつけられ、お堂の周りで松明がたかれ、太鼓が正面に出てきた。太鼓が「ド〜ン」「ド〜ン」と打たれ、法螺貝が鳴り響くといよいよ鬼追式の始まり。 2012. 2. 10. 夕

3. 鬼追式

5時40分頃 法螺貝が境内に響き渡り、「ドーン」「ドーン」と太鼓が打ち鳴らされると本堂の裏から本堂の西側回廊の奥に松明をかかげた赤鬼・青鬼が現れ、赤鬼がユーモラスな歩き方(踊り?)で正面へ躍り出てきて、回廊の手すりに足をかけ、松明を境内に投げ入れる。そして、新しい松明を貰って 正面西隅で青鬼の到着を待つ。

境内の人並みがパッと割れ、投げられた松明に人が群がる。 これはすごい。本堂の周りに世話役の人が幾人も配置し、小学生など子供たちを遠ざけていたのはこれだ。

次に青鬼が踊りながら正面角まで出てきて、赤鬼と同じように松明を境内に投げ入れ、新しい松明を受取り、赤鬼の横に並ぶ。

赤鬼は背に斧を差し、手に槌と松明を持ち、青鬼は鉾と松明を持つ。

赤鬼と青鬼は燃えさかる松明をかかげ 舞い踊りながら本堂の正面 そして、東隅でもそれぞれ、松明を境内に投げ入れ、本堂の裏へ消えてゆく。 東端で10日は二人の鬼が餅割りの所作をするというが、こちら側からは見えない。

この鬼の舞を半時計回り4回 時計回り4回繰り返す。時計回りに巡り始める頃 境内はもう真っ暗。松明の揺れ動く炎に照らされた鬼の顔が神秘的に浮かび上がり、境内に投げ込まれた松明が火の粉を撒き散らしながら、夜空を切り裂き、邪気をはらってゆく。最後に梅の花枝を持ってもう一度本堂の回廊を舞い踊り、鬼追式は終わる。



稲美町野寺の鬼の舞

高菰寺の鬼追式

2012. 2. 10. 夕



赤鬼がユーモラスな所作で回廊を本堂の正面へ



本堂正面で舞い踊る赤鬼と青鬼 2012. 2. 10. 夕







6 時 30 分を過ぎ 梅の花枝を持って赤鬼と青鬼が舞うと鬼追式も終わり

4. 鬼追式が終わり、鬼の面をかぶらせてもらって 厄除けをしてもらう行列が出来た





の でら さん こう おん じ おに おい しき

野寺山 高 菌寺 鬼追式



毎年二月九日、十日に、鬼追式が本堂観音堂で古式ゆかしく行われます。

赤鬼は毘沙門天、青鬼は不動明王の化身となって、大太鼓と法螺の音に合わせ、燃え盛る「タイマツ」を振りかざし、天下泰平、五穀豊穡を祈り、豪快に踊ります。

本堂の回廊を所定の回数踊り、本堂正面で餅つき、餅さりの作法を行い、また、要所で「タイマツ」を投げつけます。

「タイマツ」を家の玄関にかかると魔除けになるといわれ、また、式が終わって本堂正面で鬼の面を赤ん坊にかぶせてもらうと、夜泣き、頭痛が治ると言い伝えられています。



播磨西国第二十四番霊場
野寺山 高 菌寺 (真言宗)

稲美町 野寺





現在使用の面 延享2年(1745年)
現在使用の太鼓 元禄6年(1693年)

平成4年12月稲美町文化財指定

